

研修概要

下松市立公集小学校

1 研究主題

学ぶ喜びを育む授業の在り方

～課題設定を工夫し、子どもたちの思考をつなげる授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は「人との関わりの中で、学ぶ喜び、ふれあう楽しさを実感する公集っ子の育成」であり、支持的風土のある学級づくりを基盤としながら「知・徳・体」のバランスのとれた教育を目指している。

「学ぶ喜び」とは、子どもたちが「わかる」「できる」という実感をもつことであり、知識・技能が日常生活に役立つという充実感や有用感を感じることである。そうすることで仲間と試行錯誤しながら問題を解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見とその解決に向けて進んで取り組むことができるであろう。

「ふれあう楽しさ」とは、友達等との関わりの中で、他者に対する思いやりの心を育み、みんなと協働することや、話し合い活動を通して自分の考えを広げたり深めたりすることである。

これらの喜びや楽しさを「人との関わり」の中で子どもたちが味わうことができる学校を目指している。この学校教育目標を具現化するためには、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行っていく必要がある。

(2) 昨年度までの取組から

本校では一昨年度から「学ぶ喜びを育む授業の在り方」を研修主題に掲げ、課題設定の工夫や子どもたちの思考をつなげる授業づくりを目指して研究を進めてきた。その成果として、次の三点が挙げられる。

- 子どもたちが学びたいことを考えたり、学びの本質について考えたりすることで、より意欲的に学ぶ子どもが増えたこと。
- 子どもの思考のつながりや他教科、実生活とのつながりなどを、教職員が意識したことで、子どもたちが学びを深めることができたこと。
- 子どもたちが話す時間を意図的に作り出したり、タブレット端末で意見を共有し、比べながら考えたりすることで、話し合いの土台を作ることができたこと。また、特別活動を通して育んできた学級の支持的風土が、友達の発言に対するうなずきや「確かに」などの反応につながり、発言しやすさ、友達の発言を聞こうとする態度につながっていること。

一方、今後に向けて改善していくべき課題としては、次の三点が挙げられた。

○課題設定の工夫について

昨年度は子どもの思いを生かした課題設定の工夫を研究したことで、前述のような成果を得た。課題は、子どもが学習したいことと、教師側の指導目標をつなげていくこと、さらには課題設定を工夫することで子どもの興味関心を引き出し、より深い学

びにつなげていくためには、確かな教材研究をしていく必要がある。

○思考をつなげることについて

昨年度は各教科の見方・考え方を生かし、子どもたちの思考をつなげる授業づくりについて研究した。前述のような成果が上がり、子どもたちも思考のつながりを意識し始めた。今年度は各教科の見方・考え方について「意識し始める」から「使って考えられる」にするために、教師自身が意識的に見方・考え方を使ったり、子どもたちの考えを価値付けたりしていきたい。また、タブレット端末を活用することは、思考をつなげる授業に一定の効果が認められた。今年度はどの場面でタブレット端末を活用するのが効果的なのか、子どもたちにどんなスキルを身につけさせれば、より思考がつながり、深まるのか等についても研究していきたい。

○話し合う力について

昨年度は「話す活動」「聞く活動」を教師が意図的に設定することで、子どもたちに「話す力」「聞く力」の土台ができてきた。うなずきながら聞いてもらえる経験、自分の出した意見に反応が返ってくる経験などが「もっと話したい」「もっと言いたい」「もっと考えたい」という意欲につながるであろう。今年度は昨年度の取組を続けつつ、教師が話し方、聞き方の見本を見せることも大切だと考える。また、集会の内容を決めるなどの学級活動は、子どもたちが意欲をもって自分の意見を述べ、友達の思考をつなげていくことができる機会である。学級活動や朝学などの時間を効果的に使い、子どもたちが話すこと、聞くことができる場面を意図的に設けることで、子どもたちが学ぶ喜びを感じられる授業を目指していきたい。

(3)令和3年度学力定着状況確認問題の結果から

5・6年とも、学校全体の正答率は、おおよそ県平均正答率を上回っている。しかし、設問ごとに比較すると県平均を大きく下回っているものがあり、課題があると言える。国語では目的に応じて書くこと、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることに、算数では順序立てて説明することや根拠を明らかにし、言葉や式を用いて説明することに課題が見られた。このことから、本校の児童には、目的意識をもって話したり書いたりする力や論理的に思考する力が必要であると考えられる。

以上のことから、今年度はこれまで育ててきた支持的風土や話し合い活動の経験を生かしつつ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、子どもたちが学ぶ喜びを感じながら相手意識をもって協働的に課題解決に取り組むことができるよう本主題を設定した。

3 研究仮説

学ぶ喜びを育むために、子どもの発言や問いを教師が学習課題とつなげていくことで、子どもたちが話し合う必要性・必然性を感じ、主体的に考えていけるのではないか。また、各教科の見方・考え方を働かせることで、どう考えるかが分かり、思考がつながり、学びを深めていけるのではないか。そのためにも、学級活動や日常の学級経営で人と関わる機会を多く作り、子どもたち一人ひとりが話し合うことに慣れていく必要があると考える。

4 研究の視点

視点1 子どもの思いを生かした課題設定の工夫

視点2 各教科の見方・考え方を生かし、子どもたちの思考をつなげる授業づくり

5 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究活動

- 下学年部、上学年部に分かれて研修を行い、共通理解を図る。
- 日々の授業実践を最も大切にし、学力向上との連携を図りながら、研究テーマをもとに「計画・実践・検証・改善」し、全体として取組の方向性の評価を行う。
- 一人一授業では研究テーマをもとに授業を組み立てて、授業を公開する。(今年度は各々が研究を深めたい教科を授業する。) 子ども、教師の授業評価を行うとともに、授業後はミニ協議会を開く。授業記録、協議会記録を残し、成果と課題を明らかにして継続的な実践に努める。
- 実技講習などを行い、互いに教育技術を教え合うことで授業力の向上に努める。
- 週に一回程度、授業に関する情報交換、教材研究の時間を作る。

(2) 研究内容

学期	期 日	研 修 内 容
一学期	4月27日(水)	・研究組織と研修計画提示 ・一人一授業について ・研修組織メンバー決定 ・研究主題や仮説、内容の検討
	5月11日(水)	・前期学力向上プラン
	5月25日(水)	・児童理解の会 ・個別の指導計画作成について
	6月15日(水)	・校内研修の計画
	7月21日(木)	・夏期休業中の校内研修の計画提示
夏期 休業中	7月25日(月)	・救急救命 ・網紀保持 ・ICTを活用した授業づくり
	7月26日(火)	・初任者研修公開授業 検討会
	7月27日(水)	・学校運営協議会の熟議
	8月29日(月)	・市教研公開授業 指導案検討会 ・人権教育
二学期	9月28日(水)	・教研大会公開授業
	10月 5日(水)	・初任者研修公開授業指導案検討
	10月26日(水)	・ユニット型研修(初任者授業)
	11月 2日(水)	・後期学力向上プラン
	12月 7日(水)	・研究紀要作成の計画提示
三学期	2月 8日(水)	・研修のまとめ 来年度の方向性について
	2月22日(水)	・研修のまとめ提出
	3月 8日(水)	・研修のまとめを冊子にする

6 研究のまとめ

(1) 課題設定の工夫について

子どもが授業全体を通して主体的に追求活動を進めるためにも課題課題は重要である。今年度の校内研修の一人一授業においては、授業の導入で子どもたちから疑問が

湧き上がるようにするために、資料提示を工夫する場面が多く見られた。学習課題についてのまとめにおいても解決の結果だけでなく解決方法まで入れる授業もあった。

(2) 思考をつなげることについて

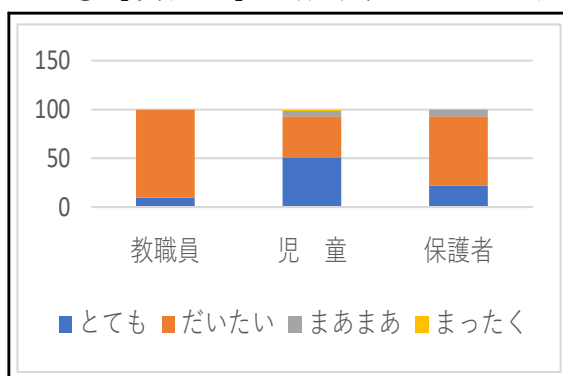
今年度は、全学年にタブレット端末が配付されたことで、各自が調べたりまとめたりする活動に幅が出てきた。更に、子どもの記述をタブレット端末画面や大型テレビに映し出すことで、考える内容を全体で焦点化することができた。そうすることで、仲間の考えを基に考えを深める場面が多く見られるようになった。

(3) 話し合う力について

ここ数年はコロナ禍にあり、教育活動に制限がかかる場面もあった。仲間との関わり合いの場である話し合い活動においても距離や時間の制限があり、話し合う内容を焦点化する必要があった。そのようなときに ICT を活用することで、画面上での共同作業による関わり合いが多く見られるようになった。

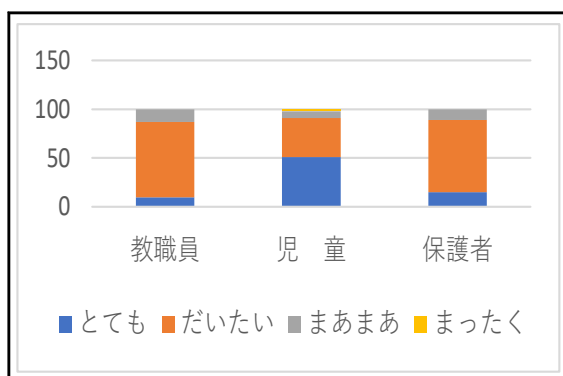
(4) 「教職員・児童・保護者」のアンケート結果より

①【質問 1】授業中、子どもが課題解決に向けて熱心に取り組んでいる。



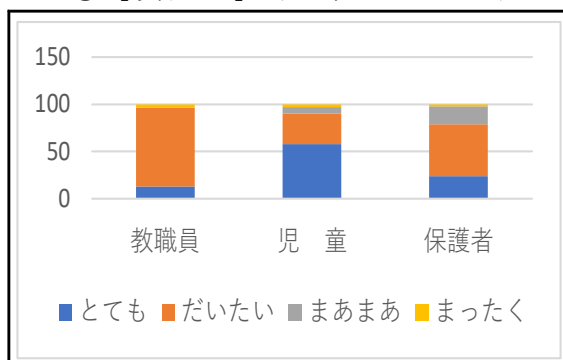
保護者、児童、教職員の3者ともに、肯定的評価が9割を超えた。教職員は、校内研修テーマ「課題設定の工夫」や下松市での取組「キラリくだまつ授業づくり」を意識して授業をしている。保護者アンケートには「のびのびと意見が言える環境がよかったと思う」という回答があった。児童からは「理解を深めたいから、考える時間がもっとほしい」という回答があった。

②【質問 2】授業中、子どもが友達の考えをもとに自分の考えを深めている。



コロナ禍で、合唱や演奏、話し合い活動などに制限がかかる中で教育活動を進めている。一人一台タブレット端末が配付されたため、友達の考えを画面で共有できるようになった。一つの画面に班のメンバーが自分の考えを書き込む共同作業もできるようになり、仲間との関わり方の幅が広がった。保護者から「みんなで意見を言う時間がよかった」という回答があった。

③【質問 3】毎日、子どもが宿題を熱心に行っている。



保護者の肯定的評価は8割を下回るものの児童と教職員は9割を超えた。引き続き、「自主学习ノート展」を開いたり、学年便りに「学びの窓」を掲載したりすることを通して、学校と家庭との連絡を密に取っていききたい。音読カードや計算カードなどの日々継続して取り組んでいる宿題については、今後も保護者の協力を得ながら進めていきたい。